

## 平成24年度 第5回栄養学教育FD／ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成24年9月29日（土）17：00～

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：武藤志真子委員長 中川靖枝委員 酒井映子委員 室伏誠委員  
（事務局）井端事務局長 森下主幹 松本職員

### IV. 検討事項

学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

教育改善モデルの編集

教育改善モデルの本文ならびに挿入する図について、委員より作成された案をもとに検討を行った。

#### 1. 栄養学教育における教育改善モデル（その1）

##### （1）図の検討

###### ●図『学生を中止に据えた「学びのスクラム」のための連携』

- ・大学間、地域社会、関連団体との連携が描かれており「2.2 授業の仕組み」をイメージできるので、『「学生の学び」と地域社会の活性化』を目指した協働』の図と番号を入れ替え、2つとも「2.2 授業の仕組み」に入れた。
- ・社会との連携が重要。地域社会とコンタクトを取れるレベルの教員が結び付かなければならない。
- ・face to face とネットワーク上の連携を矢印で区別する。
- ・「2.2 授業の仕組み」をさらにイメージしやすいよう「学修支援システム」「eラーニング」「教材データベース」を追記した。
- ・学生が中心なのが当たり前だが「学生」という文言はあった方がわかりやすい。

###### ●図『「学生の学び」と地域社会の活性化』を目指した協働』

- ・『学生を中止に据えた「学びのスクラム」のための連携』の図と番号を入れ替え、2つとも「2.2 授業の仕組み」に入れた。
- ・「健康増進への支援」「学生への教育効果」の補足説明を削除した。

###### ●図『食の安心を得るための学生が提案する方策』

- ・単にお弁当をつくるだけでなく、地域の活性化につながるよう、地域と連携した販売戦略の事例として「2.4 ICTを活用した学修内容・方法」に入れた。

##### （2）モデル本文の検討

- ・「2.3 授業にICTを活用したシナリオ」①に、テーマ事例を追加した。

- ・「2.4 ICTを活用した学修内容・方法」①に、ソーシャルマーケティングの考え方を学ぶとあるので、「特にコンセプト(食の安心)と消費者ニーズのギャップを確認し、ギャップをうめるための分析、調整、提案を行う。」と追記した。  
食の安心、消費者ニーズのギャップ、これを学生が把握してギャップを埋めるための提案をしていかないと地域が活性しない。

## 2. 栄養学教育における教育改善モデル（その2）

### (1) 図の検討

- ・「2.2 授業の仕組み」の全体像がイメージしやすいように図 1、2、3 を 1 つにまとめることにした。
- ・ポイントとなるのは、チームティーチングの教員団、ネットワーク上での指導、上級学年生やファシリテーターによる学修支援、地域社会との連携。
- ・ただのネットワークだと漠然としているので「栄養マネジメント統合学修」というタイトルをつけた。その下に学修支援システムを入れる。
- ・福祉施設、保健所、保険センターなど実務現場と学内チームティーチングを別枠で考える。
- ・教員間や地域社会などとのネットワークは双方向に矢印をつける。
- ・上級学年生、ファシリテーターはチームティーチングの教員と絡む。
- ・コンテンツデータベースはネットワーク上にあるので、学修支援システムの下に入れる。
- ・PBL型学修、グループ学修などは方法になるので、学修支援システムの下に入れる。

### (2) モデル本文の検討

- ・単に実務現場といっても専門家と連携しないと意味がないので「2.1 授業のねらい」の「実務現場と連携した」を「実務現場の専門家と連携した」に修正。

## V. 今後について

24年度の委員会は本日で終了とし、事務局で修正した図の最終的な確認はメールで行うことになった。

以上